

みる つくる かたる 2012

VOL.39 (通巻101号)

ART NEWS 千葉県立美術館報

平成24年度企画展 増村益城 展

—人間国宝 漆を極める—

平成24年11月17日(土)～平成24年12月27日(木)

開館時間 9:00～16:30

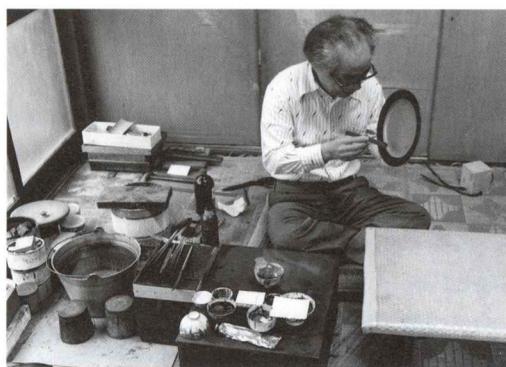
休館日 月曜日(ただし12月24日は開館し、翌日休館)

入場料 一般500円(400円) ()内は20名以上の団体料金

高校・大学生250円(200円)

中学生以下・65歳以上は無料

※詳しいことはお問い合わせください



制作中の様子

この展覧会は、漆の巨匠増村益城の回顧展である。増村が漆を始めたのは、熊本市立商工学校が最初であり、14歳の年からだった。そのキャリアは70年余に及ぶ。会場には、商工学校在籍中の作品、美術展覧会へ出品を始めた頃の作品、重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝に認定された頃の作品など、初期から晩年までの約90点を展示する。

増村益城(本名:成雄)は、明治43年(1910)熊本県上益城郡益城町(旧:津森村)に生まれた。小学校を卒業後、熊本市立商工学校漆工科に進学した。学校では漆に関する講義と、重箱や会席膳の塗りなどを学んだ。

卒業後、同級生の山本剛史の誘いで奈良に移り、2年間修行した。この頃から、漆を塗る土台となる「素地」の形にこだわるようになり、納品された素地に手を加えて漆を塗るようになった。また、増村のデザインを特徴付ける、安定感のあるゆるやかな曲線は、奈良で接した

正倉院の名宝の影響を受けたものと思われる。

その後、同じく山本の誘いを受け上京し、赤地友哉^{あかじ ゆうさい}に師事した。赤地のもとで、薄塗りを特徴とする伝統的な塗りの技術を修練した。

5年の修行を経た昭和12年(1938)、東京都豊島区長崎町に移り独立した。27歳の年であった。以後、本格的に出品活動を開始した。戦前までは主に新文展(現:日展)に出品し、入選していた。戦後も日展に出品を続けたが、昭和31年の第3回日本伝統工芸展に入選したのをきっかけに、以後は同展へ出品を続け、最高賞である総裁賞など数々の賞を受賞、美術工芸家としての評価を確立した。いつの頃からか「伝統工芸の増村」と呼ばれるようになり、また、高度な技術を有する人として、漆工芸家の間でも知られるようになった。晩年期は、千葉県柏市に移住し、柏の葉をモチーフにした作品など、独創的な造形と卓抜した塗りの技術で、優れた作品を数多く残した。

■作品の特徴

増村の作品を特徴付けているのは、高度な塗りの技術と、微妙な曲面に富んだ形の造形である。これは「乾漆」と呼ばれる技法を用いており、唐招提寺の鑑真和上坐像など著名な仏像も、この技法でつくられている。写真の作品は、一見すると木に漆を塗っているように見えるが、実は麻布と和紙を張り合わせたものを土台として、そこに漆を塗って仕上げていく。このため、丈夫で軽く、耐久性が高い。蒔絵で著名な松田権六^{まつだ こんろく}の「名作に重いものなし」という言葉に感銘を受け、使いやすくあること、軽くあることを念頭において制作を続けた。麻布と和紙をそれぞれ5回張り重ね、表と裏で合計22回の塗りを施して完成した作品の厚さは、2mmほどしかない。この展覧会で、漆を極めた作品を紹介する。

(主任上席研究員 中松れい)



《乾漆朱輪花盤》
昭和58年(1983)
熊本県立美術館蔵

企画展「増村益城展」関連事業

美術講演会

増村益城研究の第一人者である柳橋眞氏を講師に招き、増村益城作品の特徴とその魅力について画像を交えながらお話しいたします。

日 時 平成24年12月16日(日) 14時～
会 場 千葉県立美術館 講堂 定員200名
演 題 「増村益城の人と芸術」
講 師 柳橋眞氏(金沢美術工芸大学名誉教授)
参加方法 申し込みは必要ありません。当日、直接会場までお越しください。入場無料ですが、企画展をご覧になれる場合は、別途入場料が必要です。

弦楽四重奏による室内楽コンサート

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーによる室内楽の演奏会です。

日 時 平成24年11月24日(土) 14時～
会 場 千葉県立美術館 講堂 定員200名
演 奏 第1 ヴァイオリン: 本庄篤子
 第2 ヴァイオリン: 荒巻美沙子
 ヴィオラ: 高田美樹子
 チェロ: 若狭直人
 司会: 中里かほり
内 容 弦楽四重奏による室内楽コンサート
曲 目 アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1・2・4楽章(モーツァルト)、四季「秋」より第1楽章(ヴィヴァルディ)、五木の子守唄(熊本県民謡)ほか
対 象 一般 定員200名 入場料 無料
参加方法 往復葉書にミュージアムコンサート希望・希望者氏名(複数名可)、住所、電話番号を明記の上、千葉県立美術館普及課まで申し込んでください。
申込締切 11月8日(木) 必着。定員を超えた場合は抽選。

ギャラリートークなど

増村益城展開催期間中、下記日程で当館学芸員によるギャラリートークを開催します。参加申し込みは不要ですが、会場への入場料が必要となります。当日、増村益城展会場へお越しください。

開催日時 11月18日／11月25日／12月2日／12月9日／12月23日の各日曜日 14時～

(12月16日は美術講演会のため、ギャラリートークの開催はありません)

また、11月17日(土) 13:00～15:00には、当館講堂において千葉県立博物館文化セミナー「千葉学講座」が開催され、その一環として、当館学芸員中松れいが「漆の人間国宝 増村益城の歩み」と題して講演を行います(14:00～)。申込不要、聴講無料です。ふるってご参加ください。

平成24年度教育普及事業から

ワークショップ 2012

今年度、公益財団法人千葉県教育振興財団との共催事業として5つのワークショップを開催、または開催予定です。

第1回「みんなのかお・faceあーと」5月12日(土)

展示中の「アート・コレクション 肖像画」にちなんで紙皿を顔に見立てて、毛糸や色画用紙、カッティングシート等を使って鏡を見ながら自分の一番良い表情を作りました。自分の特徴や好みをデコラティブに、またデフォルメしたりして表現しました。参加者36名でした。

第2回「いろいろ・創作あーと」6月16日(土)

緑日のようなワークショップを行いました。内容は、①ビルダーカードで遊ぼう、②石ころであーと、③頭の良くなる多角形を作ろう、④カンバッジを作ろう、⑤プラスチックのストラップを作ろう、⑥割り箸鉄砲を作ろうの6種類です。

今年度は他分野との融合を考え、化学や数学の要素を積極的に取り入れました。「割り箸鉄砲を…」では真剣に細工の調整を行い、的で仕上がりを確認する子供達の姿が見られました。参加者83名でした。

第3回「キラキラ・万華鏡づくり」7月28日(土)

「キラキラ・万華鏡づくり」パート2 8月18日(土)

特別企画展「光のアート展」に因み、プラスチック板を使った立方体の万華鏡を作りました。立方体の側面に好きな形を彫ってカッティングシートで色をつけ、外部からの光で内側の鏡に何回も映り込むという仕組みの科学的な工作を行いました。夏休み中もあり、応募倍率が約8倍にもなったため、8月に再度実施しました。参加者は、初回が32名、パート2は34名でした。



第4回「モノレール・駅であーと」9月15日(土)

千葉都市モノレールとの共催で同モノレール千葉駅の構内連絡通路の壁面に、カッティングシートで創作を行いました。「どんどんつながるモノレール、モノレールに乗って行ってみたいふしぎな国」をテーマに制作しました。モノレールに乗ってどんな「不思議な国」に行きたいか、どうしてその国が好きなのか、その国に行けたらしたい事等をテーマとして形にしました。そして参加者全員の夢の国を1本のレールでつなげました。小学生の親子19組が参加しました。

第5回「ワクワク創作あーと」12月1日(土)

自由参加で当日受付、3歳以上先着200名で行います。絵を描き、カンバッジに仕上げます。どうぞお越しください。

ミュージアムコンサート

来館者の皆様に大変御好評いただいているミュージアムコンサートも今年で20年目を迎えました。今年度も4月から4回のコンサートを開催しました。4月には千葉市内のアマチュア音楽サークル「千葉シニアアンサンブル」、5月には千葉市内在住の音楽家による子供も楽しめる音楽会、7月には県立千葉女子高等学校オーケストラ部によるサマーコンサートを開催しました。8月は、特別企画展「光のアート展」関連事業として、マリンバとヴァイオリンによる演奏を催し、合わせて約1,200名の方々が素晴らしい演奏に耳を傾けました。

11月24日（土）、14時より企画展「増村益城展」の関連事業として、県民芸術劇場公演「ミュージアムコンサートー弦楽四重奏による室内楽コンサートー」を開催します。今回は室内楽の王道ともいえる弦楽四重奏により、お馴染みのモーツァルトやヴィヴァルディ、ドヴォルザークの名曲、日本の曲のメドレーの他、企画展「増村益城展」にちなみ、熊本県民謡五木の子守唄などを演奏します。

実技講座

実技講座は、7日もしくは6日でじっくり制作に取り組む実技講座と土曜日を2日使って実施するホリデーアートの2種類を実施しており、何れも午後の3時間半が講座の時間となっています。

実技講座は、既に「陶芸応用講座」、「陶芸基礎講座」が終了し、11月の「金工講座」を残すのみとなりました。ホリデーアートは、8月後半から9月初旬に「コラグラフ講座」と「シールパークレイ講座」を実施しました。参加人数は何れの講座も定員に満たないものでしたが、その分丁寧な指導を受けて質の高い作品が多く制作されました。

これらの作品は、12月18日（火）から12月24日（月）までの「実技講座作品展覧会」で展示されます。ぜひ、「増村益城展」と合わせてご覧ください。



ホリデーアート・コラグラフ制作風景

学習キットに「バーチャル・ミュージアム」が増えました

学校や社会施設でのご利用に即した貸出キットに、新しく「バーチャル・ミュージアム」が増えました。このキットでは、当館第八展示室の精密模型の中に、世界の名画のミニチュア複製画を自由に配置して、オリジナルの展覧会を企画する事が出来ます。また、マイクロカメラで中を覗き込み、企画した展覧会を実際に見ているような体験をする事が出来ます。貸出のご相談は普及課まで。



地域連携・学校連携

昨年度に引き続き、9月10日～17日にかけて、地域のNPOや中学校と連携してアートプロジェクト「創造海岸アート祭」を実施しました。

今年は千葉市立磯辺第一中学校の美術部とアーティストの金子まどか氏のコラボレーション作品を中心として、千葉市内で行われた市民参加型のワークショップで制作した作品を展示しました。



金子まどかさんと磯辺第一中学校美術部による作品全容

また、11月17日～12月2日には成田市内で、成田山表参道仲町商店街、成田高等学校・附属中学校、市立成田中学校、成田市、成田市教育委員会との共催で、アートプロジェクト「成田アート博覧会」を実施します。今後も県立美術館は、地域と学校をアートをとおして結びつける事業を積極的に展開し、美術をとおした地域文化の振興に寄与していきたいと考えています。

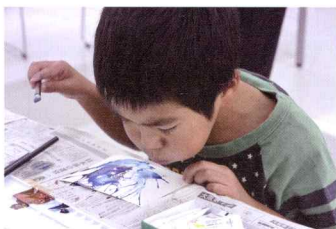
夢づくり隊 ～金石へ～

日本赤十字社千葉県支部と千葉県立美術館は、緊密な連携を続けており、平成23年度には「東日本大震災記録写真展」を開催、それを期に、より直接的な被災地支援として被災地の子どもたちを対象にワークショップを計画、岩手県釜石市教育委員会を含めて協議を重ねた結果、日赤キッズクロスプロジェクトの一環として実施の運びとなりました。

このプロジェクトは『夢づくり隊』と命名され、その第1回の釜石プロジェクトは8月6日から9日まで行われました。参加メンバーは、日本赤十字社から臨床心理士やボランティアを含め8名、釜石市教育委員会職員1名、千葉県立美術館からボランティアを含め3名でした。釜石市教育委員会のご尽力により準備・設営された4会場で釜石市内の未就学児から小学生（一部中学生）計146名が参加しました。行ったワークショップの内容は全会場共通です。

ワークショップ『はっけん!!自分色 オリジナルカンパジづくり』

小学生以上は、水彩絵の具で、にじみ・ぼかし・吹き飛ばしなどの技法を用いて好みの色で画用紙に模様を描きました。未就学児については「クーピー・ペンシル」を使って絵や模様を



釜石市大町子育て支援センターにて描きました。そして好きな部分を円形に切り抜き、カンパジマシーンでカンパジに加工しました。水彩絵の具で描いた模様の一部を切り抜いたとき、予想を超えたすばらしい作品ができあがりました。

ワークショップ『夢ビルダーカード オブジェづくり』

千葉県立美術館オリジナルビルダーカードを改良した、直径25cmと10cmのダンボール製円盤状カード各1,000枚を使い、「夢の〇〇をつくろう」をテーマにオブジェづくりに挑戦しました。一人で作品づくりに取り組む子どももいれば、数人で相談・協力して大きな作品づくりに取り組む子どももあり、それぞれ個性的な作品ができあがりました。使用したビルダーカードは



釜石市甲子学童育成クラブにて釜石市教育委員会に寄贈され、今後も活用される予定です。

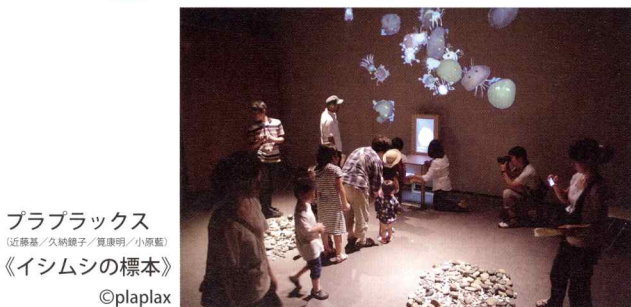
釜石の子どもたちの生活環境・教育環境はいまだに十分なものではありません。自由に遊び、自己を表現する場が不足しています。そのなかで、アートという非言語表現によって自由に創作することは、一緒に参加した臨床心理士からも、「精神浄化」「自己肯定」「自尊心回復」といった「こころのケア」効果があると評価されました。しかし何より、子どもたちの嬉々とした笑顔とできあがった作品のすばらしさを見れば、何も言葉は要らないと感じました。

魔法の美術館 光のアート展

平成24年7月14日（土）から9月2日（日）まで、特別企画展「魔法の美術館 光のアート展—光と遊ぶ超体感型ミュージアム—」が開催されました。当館ではこれまであまり開催してこなかった「光」をテーマとしたメディアアートの展覧会です。音や映像、デジタル技術を駆使した13名（組）の作家による17の作品があり、「見る」だけではなく「触れる」「参加する」という鑑賞により子どもからお年寄りまで楽しめるものでした。夏休み期間であったこともあり、2万6千人以上の来場者で賑わいました。

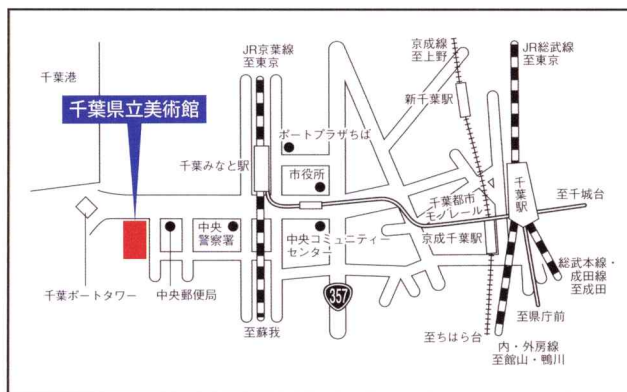


浅野耕平
《Garden》
©kohei ASANO



ブラブラックス
（近藤基／久納鏡子／真康明／小原藍）
《イシムシの標本》
©plaplaX

千葉県立美術館は、耐震改修等工事のため、平成25年1月より休館いたします。利用者みなさま、関係機関みなさまには大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。改修後の開館時期については、詳細が決定次第あらためてお知らせいたします。



開館時間 午前9時～午後4時30分
入場料 企画展「増村益城展」一般500円 高校・大学生250円
中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方（及び介護者1名）は無料
交通 JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと」から徒歩10分
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 Tel:043-242-8311 Fax:043-241-7880
<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL.39（通巻101号）
2012年10月31日発行